

卷 頭 言

今や技術家の一大覺醒奮起の秋である！

由來技術家は自身世界觀を把握することなくして、産業部門に於て行政部門に於てたとへ其れが職人的存在でしかなかつたにせよ、國家社會の進展に寄與し貢獻し來たつたのである。然し、技術の範疇が産業的に、行政的に、將又軍事的に最も重要なる要素として一大修正を必要とし、技術家が國策遂行のイニシアチブを取らざるを得ない現在に於ては、最も綜合的計畫的頭惱と解析的理論的判斷を必要するは勿論正しき世界觀の認識を必要とするのである。

法律に據つて事と處理し物を律して行けた時代は既に過去に屬する。技術家は國家の發展に民族の伸張に備へなくてはならぬ。原料不足に對しては山林、礦鑛資源の開發を企て、輸送に對しては道路鐵道を完成し運河築港を計畫せねばならぬ、動力の不足には電力を起し、食料問題の解決には不毛土地濕地の改良開拓を考へ農民を入れねばならぬ。

其處に國策が生れ、計畫經濟が樹立され、政治の根本方針が確立される。

東洋は日本を盟主として新たなる歴史へ發足した。吾人は大陸建設の名譽ある技術家として總力を傾注して時局を克服しなくてはならぬ。東亞新秩序の建設成る日近からんとする時、限無き責務は眼前に横たはつてゐる。

過去に於ける技術家の一切の獨善と個人主義とを捨て國家社會の爲め、新東亞建設の爲め勇往邁進すると共に確固たる世界觀の把握を希ふものである。